



第12号

こまがた元気会だより



～こまがた元気会主催・駒形地区公民館協力：元気な駒形の里づくり講演会～ 「地域の伝統文化の保存・継承・発展を学ぶ」研修会

元気な駒形の里づくりを目指す「こまがた元気ビジョン」では、重点項目の一つとして「歴史・文化・産業遺産を後世につなぐ里づくり」を掲げています。今回は、その取組の一環として、福島県の民俗芸能研究の第一人者である懸田弘訓氏からお話を伺い私たちの活動へのアドバイスをいただきます。懸田氏は、田中集落御田植祭を含め会津地方の御田植祭の調査・記録保存活動にもご尽力いただいております。

日時 令和3年11月9日（火）午後1時30分～3時30分

場所 駒形地区公民館

テーマ 地域における民俗芸能の継承活動について。特に、田中集落御田植祭を含め会津の御田植祭に関してお話いただきます。

講師 懸田 弘訓（かけた ひろのり）氏（NPO法人民俗芸能を継承するふくしまの会理事長）

定員 20名程度（先着順。11月4日（木）まで元気会事務局へお申し込みください。）

参加費 無料

○高郷地区の大谷直売所を視察しました！

駒形地区での農産物直売所の設置を検討するA（「農」基盤）グループは、10月6日（水）、高郷町大谷地区の「大谷直売所」を視察しました。ここは、平成29年度に県の補助金を利用して整備した店舗（2間四方の平屋プレハブ）による無人直売所で、大谷行政区全14戸が参加し、女性の方々を中心に運営されています。朝に各自が野菜を持ち込んでトレイに並べ（原則1袋100円）、夕方に集合して売上げの確認・精算し、売れ残りを持ち帰ります。会員間で切磋琢磨して品質の向上を図り、年々売上げも増えて、令和2年は340万円ほど。直売所は、地区の良い交流の場所となっており、今後は、特産品や加工品作りなどにも力を入れたいとのことでした。



大谷直売所視察風景

令和3年10月14日 発行：こまがた元気会

《連絡先》喜多方市塩川町中屋沢字田中乙3（里の駅こまがた元気館）

電話 080-2805-1050（事務局：大平）

メール koma.genki7.7@gmail.com

《編集協力》NPO法人かけはし（代表理事 石島 来太）喜多方市常盤町5004-1

◇駒形の見どころ探訪◇

今回は、本シリーズの2回目！足元の産業文化遺産「駒形堰」を取りあげます。

☆☆☆☆☆☆☆☆

駒形に住んで、この堰を知らない人はいない。誰もが、こんこんと流れる水面を心に思い描くことができる。しかし、駒形以外の人には意外に知られていないのでは。

念のために確認すると、駒形堰が完成したのは、あと僅か73年で明治維新を迎える寛政七年(1795)旧暦の3月24日のこと。今から226年前のことであり、この間、一度たりとも水の涸れたことはない。水路開削の突貫工事は前年暮れの12月28日に始まり、驚くなかれ、冬期のたった三か月間の大工事であった。地元の肝煎お二人が陣頭に立ち、濱崎奉行職を通して会津藩庁の許可を得て、総延長三里、狐堰の直ぐ東上側、駒形山の西斜面をぬって流れた水は、後日二百二十九町歩の新田を潤した。以上は金森集落の小林家が所蔵する古文書「駒形堰由来」他二点に記されている。

駒形堰の現在の出発点は、猪苗代第四発電所タービン建屋西の小さなプールになっている。プールの中から噴き出した水は、左右にくねるU字溝の開水路を、北の終点、北口沢へと流下する。受益者で組織された堰管理組合により堤体と水路は見事に管理され、各戸の負担金と毎年5月初めの堰一斉清掃作業によって維持され続けてきた。作業の済んだ翌日以降の駒形堰は、最上流部から最下流部まで、約10kmの素晴らしい散策コースが出来上がる。新緑が映え、山桜の花弁が風に舞い、水路からは突然、水鳥が飛び立ち、鶯の声が届く。

実は、駒形堰開削の最初の挑戦は、慶安二年(1649)であり、三度の失敗の後、四度目に通

水に成功したと伝わる。



ではなぜ、当時、駒形堰が計画されたか。前年からの雨不足がたたき、凶作となり、農民は食べ物に困ったからという。当時の農民の生活の様子は、黒沢明監督の映画「七人の侍」に描かれている。しかし、本当は人口増加に因る失業対策事業を兼ね、貨幣に換る米を増産して、藩の軍事力を増すことが目的ではなかったか。

ところで、プールから噴き出す水はどこから来るかご存知だろうか。駒形山の頂上にあるダムから導水管を下って来る。このダムの水は遙か東の日橋川発電所直下の水槽から、延々、地下水路を通して来ている。



では、元々の駒形堰はどこから取水していたか。駒形権現淵のずっと上流の堰からだ。実は古い駒形堰の水路が、今も立派に維持管理されている。何かの不具

合で、駒形山上のダムからの給水ができなくなったとき即復活させるために、古い駒形堰上流部を保存維持しているのである。

更に、山上のダムから近年になって、大深沢ダムへトンネルが引かれ、通水されるようになった。これはまさに、『昭和の駒形堰』と言えるのではないだろうか。